

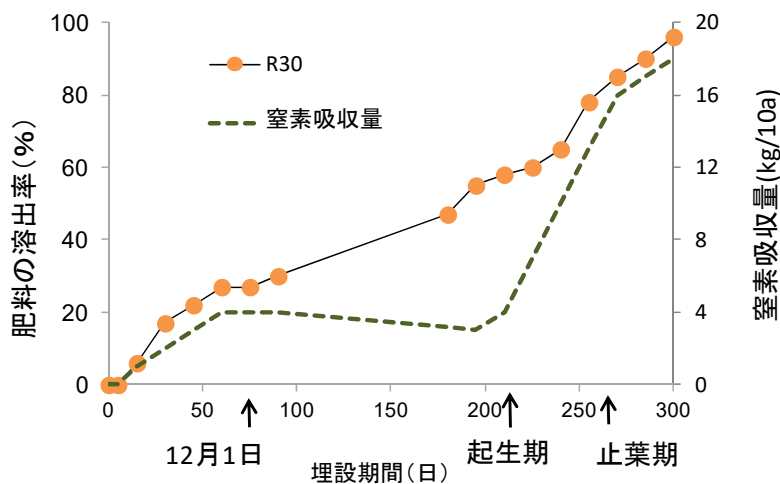
被覆尿素肥料を利用して追肥を省略 ～秋まき小麦とブロッコリーへの施用法～

秋まき小麦「きたほなみ」では基肥に被覆尿素肥料を利用すると、起生期追肥が省略可能で、対照区と同様の収量および品質が得られます。

晩春播きブロッコリーでは被覆尿素肥料を基肥に40～50%程度配合すると分施が省略可能で、初期生育が向上し増収します。

秋まき小麦

被覆尿素肥料(R30)の窒素溶出



被覆尿素肥料「セラコートR」

- 尿素を植物油系ポリウレタン樹脂で被覆
- リニア型: R15～25 の3種類
- シグモイド型: R30～130 の6種類
- Rの後の数値は25℃水中で窒素が 80%溶出する日数 (例、R50であれば50日)

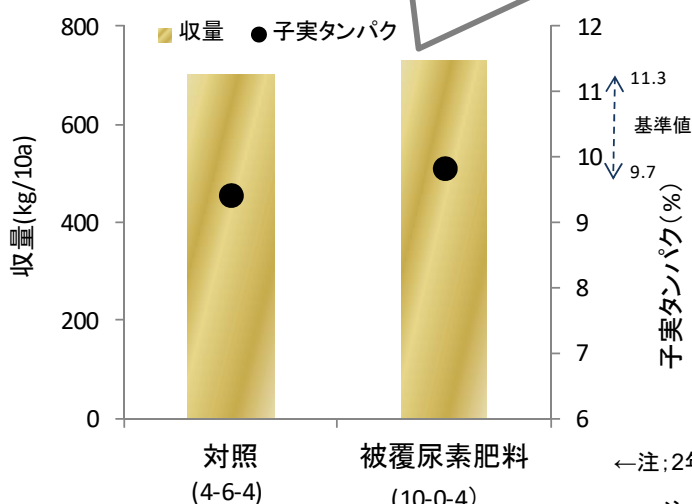


被覆無しの尿素より、被覆尿素肥料はゆっくりと溶出。
R30は秋まき小麦の生育にピッタリ。

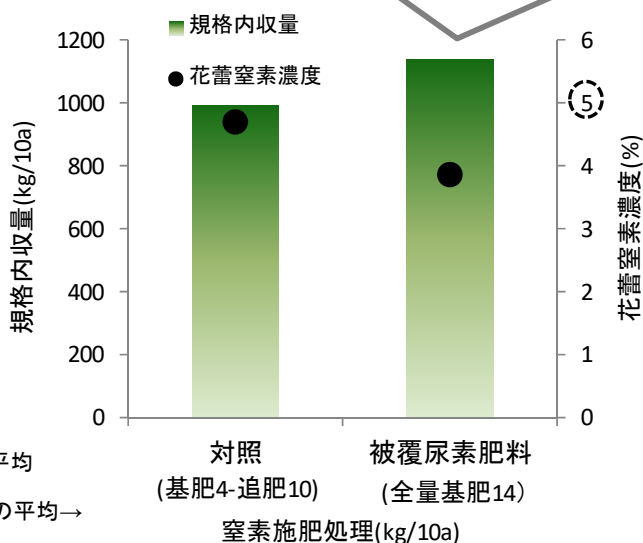
ブロッコリー

(R15を利用)

収量と品質は同程度



増収！花蕾窒素濃度5%未満



窒素施肥処理(基肥一起生期-止葉期kg/10a)

窒素施肥処理(kg/10a)

	秋まき小麦	ブロッコリー
優位点	省力(追肥省略)	省力(追肥省略)。増収と収益の増加
留意点	肥料費分の経費増 融雪後の生育が過繁茂の場合にも、一定の窒素が供給されるため、生育コントロールが難しい	—